

地質調査所

中国出張所

植田 芳郎

中国出張所は 地質調査所の一部として広島市におかれ 地質調査所の基本方針にしたがって 中国地方を担当している。 管掌する範囲は 広島通商産業局と同じく 広島 岡山 鳥取 島根および山口の5県下にわたっている。

中国地方は 地質学的に西南日本内帯に属し その地質は多様で 種々の鉱産資源を伴うとともに 地質学にも多くの貴重な事実を提供している。 この地域の研究

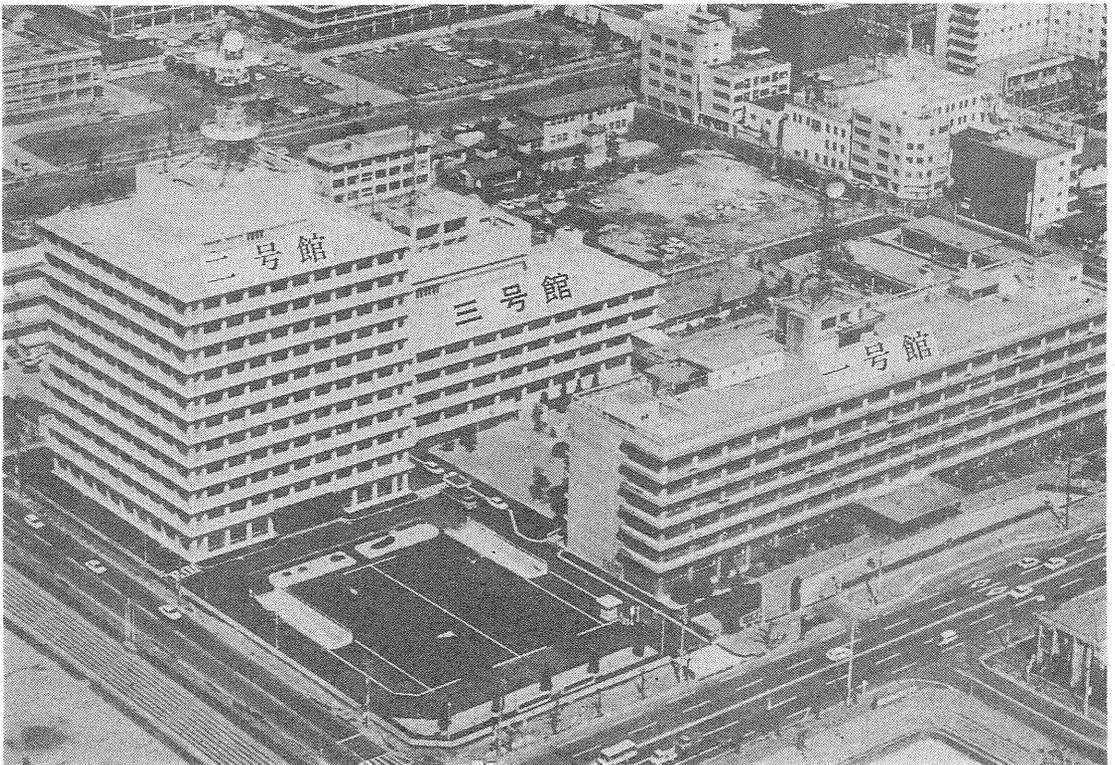
はむかしから盛んに行なわれ 地質学の面では 秋吉 大賀 中国花崗岩底盤など 古くから有名で 地層名や構造運動名などに使用されている。 また 鉱床学の面では 長登 葉王寺 大森 喜和田 柵原など 古典的で著名なものが多い。 現在では これらの業績を基盤として 新しい地質学的手法による研究が行なわれつつある。 この観点から中国地方を見た場合 なお 問題点が多く これらを取上げて研究を進め 中国地方の地質の解明に努力していかなければならない。

生 いた ち

中国出張所は 昭和24年9月に地質調査所大阪支所の出先として 駐在官が置かれたときにはじまる。 昭和27年 地質調査所の機構改革に伴い 管内の宇部駐在官を廃止して広島駐在官と合併し 広島駐在員事務所となり 本所直属となった。 昭和33年 広島通商産業局構内に庁舎を新設。 昭和42年出張所へ昇格し 中国出張所と名称を変更。 昭和47年 広島合同庁舎3号館1階に入居 現在に至る。

構 成 ・ 予 算 ・ 設 備

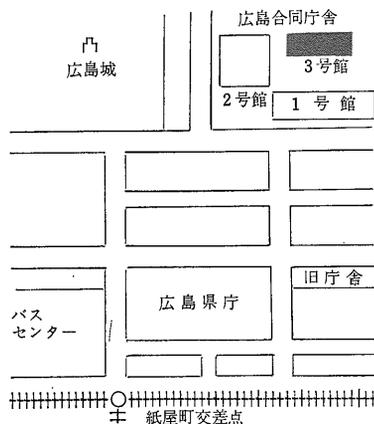
構 成：出張所長を含めて5名。 その内訳は 研究員2名 技術職員1名 事務職員1名で そのほか 広島



広島合同庁舎全景



中国出張所の配置図



位置見取図

大学からの兼務者1名である。

予 算：昭和46年度の予算は 人件費を含めた地質調査所経費14,726,547円 特別研究費38,520円 核原料物質調査研究費700,054円 合計15,465,121円である。

設 備：X線回折蛍光分析共用装置 示差熱天秤 万能顕微鏡ほか POH-2型など偏光顕微鏡5台 岩石薄片鉱石研磨関係はトリムソー スラブソー 別子式研磨機など一式 および 試料処理設備として 電磁分離機 摺潰機 粉碎機 篩分機などを備えている。

研究業務

中国地方の地質的特色を生かした研究を行なうとともに 地域内の地質に関する資料の収集 整備につとめ 地域開発に必要な基礎資料を各界に提供することを目的として 次の研究を行なっている。

鳥取クローム鉱床区の研究

玖珂タングステン鉱床区の研究

中国西部ろう石鉱床の研究

資料収集

そのほか 本所研究業務の一部を分担して けい砂 石炭などの調査研究を また 核原料物質調査研究として 山口県豊田地区の関門層群中のウラン鉱床の研究を行なっている。

また 相談および受託研究として 地質調査一般 岩

石 鉱物の鑑定 鉱床賦存の可能性 探鉱方針および地質学に関する問題全般にわたって これらに対する説明回答 資料の提供および指示を与えている。 また このうち 調査の必要性によっては 出張所としての研究としたり あるいは 受託研究として行なうこともある。

むすび

地質学の進歩は 研究を きわめて多岐に 高度に進化 分化させてきた。現在の中国出張所の人員構成でこれらの各分野に対処することは容易でない。しかし 関連各界からの要望も多く これに即応しなければならぬ。

新庁舎の入居にあたり 出張所に課せられた業務の遂行に 一層 努力するとともに 資料の整備 研究設備の充実をはかり 各方面の期待に応えたいと念願する次第である。

(筆者は 中国出張所長)

〔位置・交通〕

730 広島市上八丁堀 6 番 30 号
 広島合同庁舎
 工業技術院地質調査所中国出張所

電話 所長室 0822-21-1945 (直通)
 事務室 0822-28-5251
 内線 4213
 研究室 0822-28-5251
 内線 4214

交通 広島駅 宇品・已斐行「立町」下車 徒歩 約8分
 電車
 広島駅 宇品行「紙屋町」下車 徒歩 約8分
 バス